

円山動物園基本方針「ビジョン2050」

第6回検討部会

会 議 録

日 時：平成30年7月30日（月）午後1時30分開会
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○吉中委員長 皆さん、こんにちは。

定刻となりました。高野委員からは出席いただけないとの連絡が入ったようですので、全員がそろったこととなります。

ただいまから円山動物園基本方針「ビジョン2050」第6回検討部会を開催いたします。

本日、オブザーバーとして金子先生にご出席いただいておりますが、小菅参与は所用により欠席となっております。

前回は3月12日に開催ということで、大分時間がたちました。その間、4月の頭には市民動物園会議が行われ、そのとき、3月の検討部会を踏まえて修正されたものが出され、説明され、細かいところの議論があったようです。そこについては後ほど報告していただければと思います。

その後、動物園で我々の検討部会、さらに、市民動物園会議での議論を踏まえ、中身を精査していただいたものがお手元に配られている資料となります。ですから、本質的なところは変わっていないと思いますが、3月のものから文言整理がなされ、さらに、3月の時点では書かれていなかったところもありますので、そこについてご説明していただき、意見交換をさせていただきたいと思います。

ここでお手元の議事次第をごらんください。

今日、予定されている議事は、1の報告として、ビジョンの進捗状況、今後のスケジュールということで、項目が書かれております。環境局関係部課長会議をはじめ、市の中で議論を進めていき、パブリックコメントを経て、平成31年に確定、公表となりますが、その報告をいただきます。その後、意見交換ということで、ざっくりばらんな意見交換をさせていただければと思います。

2. 議 事

○吉中委員長 それでは、早速ですが、議事に入ります。

まずは、1の報告です。

円山動物園基本方針ビジョン2050の進捗についてです。

特に、前回お示しいただいたものからどの辺が変わったのかを中心にご説明いただきたいと思います。

○事務局（高橋調整担当係長） 前回の検討部会からの大きな変更点についてご説明いたします。

お手元の資料をごらんください。

郵送でお送りしたのから変更した箇所は朱書きになっております。

まず、表紙です。

「ビジョン2050」の「2050」についてです。

生物多様性に係る各種政策が2050年を目標年次に行っていること、そして、円山動物園が1951年に開園してからちょうど100年目を迎えることから、副題といたしまして、「開園100年目に向けて進む道」と記載いたしました。

次に、はじめにです。

ここは前回には記載がありませんでしたが、生物多様性に係る世界的背景や札幌市に係る計画等について記載しております。

次に、1ページをごらんください。

目指すべき将来像である自然と人が共生する社会を実現するためのステップを木の成長に例えておきまして、ステップ1として、全ての人々が自然の大切さを実感する、ステップ2として、自然を守るために行動する、ステップ3として、それを実現するとして、分かりやすく表現しました。

次に、3ページをごらんください。

ここからは基本理念の保全と教育についてです。

この二つの基本理念のページでは、前回まではいろいろな項目がまとまって表現されていましたが、大きく世界に目を向けたもの、地域に目を向けたもので整理しております。また、重複した文章も整理しております。

例えば、3ページは、保全に関する世界に目を向けたものとなります。

次に、5ページと6ページをごらんください。

こちらには、地域保全について、地域に目を向けたもの、地域の中核を担う保全活動の拠点にということなどの記載になっております。

この地域に目を向けたものですが、5ページに北海道や札幌市の生物多様性の保全について記載しており、6ページに円山動物園周辺の生物多様性の保全についてというように分けて記載しております。

次に、7ページをごらんください。

今ご説明しましたように、教育についても世界に目を向けたものと地域に目を向けたものに分けて記載しております。7ページと8ページは世界に目を向けたものとなります。

次に、9ページをごらんください。

こちらは地域に目を向けたものでして、総合的なフィールドミュージアムとしての地域の教育拠点に、ということについて記載しております。

次に、11ページをごらんください。

こちらの調査・研究につきましてはそれほど大きな変更はございません。

次に、13ページをごらんください。

前回までの資料では、「レクリエーション」という言葉を使っておりました。これは、レクリエーションを行うというようなイメージが先行しやすいとのご意見から、この言葉の語源が持つ回復する、元気づける、新たな創造するという意味を強調するため、「リ・クリエーション」と表現しております。

次に、15ページをごらんください。

動物福祉のページですが、前回まで、獣医医療の充実に係る部分が前のほうに記載されておりました。しかし、病気にならないように飼育することが第一であることから、動物たちが安全で健康に暮らせる取り組みを前項に記載し、獣医医療の項目は後ろに記載するようにいたしました。

次に、17ページをごらんください。

連携の項目ですが、ここでは、主語がはっきりしないもの、内容が重複しているものがありました。そこで、主語を動物園とし、動物園が各主体とどのように連携を強化するかがわかるようにしました。そのため、わかりやすくなるよう、全ての各主体との連携のところに「円山動物園は」という主語を入れております。最終的には消すかもしれませんが、現在はわかりやすくなるようにそのようにしております。

次に、19ページをごらんください。

こちらからが前回までお示ししていなかったコレクションプランになります。前回は考慮すべき項目として四つをお示ししていましたが、これに基づき、今後の動物の飼育方針として、推進種、継続種、撤退種、そして、コレクションプランから想定される施設整備について記載しております。

まず、考慮すべき項目の一つ目の保全に関する取り組みの必要性は、絶滅の危機に瀕している、または、将来的にそのおそれがあり、国内外において種の保存に取り組まれている種であり、円山動物園として繁殖、維持、余剰個体飼育施設としての役割を担うべきものとしております。

次に、教育・メッセージですが、こちらは、当該動物の飼育により、生物多様性や生息地の保全を伝えることのほか、情操教育に資する種としております。

次に、動物福祉の確保ですが、飼育の面積や環境の確保など、動物福祉を充実させた飼育環境を用意することが可能であり、動物福祉の向上に取り組むことができるものとしております。

次に、飼育の持続性は、将来的に飼育、繁殖させるために寿命や国内外での飼育頭数などを考慮し、将来的にも入手可能なものとしております。

この四つの項目を考慮しまして、推進種として、動物園など、国内外の施設と連携し、積極的に飼育、繁殖に取り組む種、継続種として、飼育を継続し、必要に応じて繁殖に取り組む種、撤退種として、将来的に飼育を中止する種に分類しました。

これは、動物園で飼育している全ての動物種について考えておりますが、ここでは、施設整備にかかわるもの、市民の関心が高いと考えられるものを記載しております。

例えば、オラウータンは、森林伐採などの影響で絶滅の危機にありまして、森林伐採の目的となるパーム油の生産は、日本人の生活にも密接にかかわっており、展示を通じた積極的な環境教育活動を行うために必要な種であると考えたため、推進種として分類しました。このほか、フンボルトペンギン、北海道産動物、また、3月にオープンしましたホッ

キョクグマ館のホッキョクグマ、これから導入されるアジアゾウなどとしております。

次に、継続種ですが、例えば、アライグマは、外来種問題の提起を行うために必要な種といたしまして、積極的な繁殖には取り組みませんが、継続して飼育する種として分類しました。

次に、撤退種ですが、例えば、ブチハイエナは、個体確保の困難さ、また、動物福祉に配慮した飼育面積の確保が困難であることから撤退種として分類しております。このほか、クロザル、ゼニガタアザラシ、シンリンオオカミなどとしております。

次に、これらコレクションプランから想定される施設整備についてです。

北海道ゾーンについては、海獣舎跡地周辺を中心として、北海道の自然環境と生物の関係を知るきっかけとなる場所として整備します。また、オラウータンについては、類人猿館として、熱帯雨林の必要性を伝え、来園者が保全活動にかかわれるきっかけとなるように整備したいと考えております。

次に、21ページをごらんください。

こちらは、前回までは行動指針として大項目を設けておりましたが、実施体制や経営基盤にかかわる内容が混在していたことから、小項目に分けて整理しました。

まず、組織体制です。

理念の一つとして教育を掲げておりますので、専門に担当する係の新設など、環境教育部門の強化を図るほか、また、動物園という多くの人が集まる場所をより有効に活用するため、円山地区を拠点として、関係部局が進める地域の生物多様性の保全や環境教育を推進するとともに、動物園とは別に、生物多様性センターの創設など、関係部局の円山地区への集約も視野に入れた検討を行います。

そして、世界に目を向けたものとして、世界動物園水族館協会（WAZA）への加盟など、世界規模の生物多様性の保全に貢献できる体制を構築する旨を記載しました。

次に、リ・クリエーションの観点から、来園者の知的好奇心に応え、憩いの場を提供するためにというところですが、獣舎や園路、植栽の整備のほか、子どもから大人まで、興味が湧く解説板の設置、また、地下鉄円山公園駅から動物へのアクセス改善など、総合的かつ長期的に検討できる体制の構築について記載しております。

次に、動物福祉の観点から、動物専門員の飼育技術の向上のための人事交流、また、動物栄養学や心理学、動物看護など、動物専門員の専門性の向上、獣医師職を継続的に確保できる制度の新設、獣舎など、施設の効率的な整備のために必要な建築を専門とする技術職の配置、園長が長期に配置できる仕組みの構築などについて記載しております。

続いて、経営基盤です。

生物多様性の保全や調査・研究など、資金調達を視野に渉外を担当する係を新設するほか、基金の創設、また、市民意識調査や市民動物園会議でも入園料については安いとの意見があったことから、入園料の見直しや減免のあり方など、受益者負担の適正化を行います。そして、資金運用の明確化を図るための特別会計制度の導入、しっかりとした法的根

拠のもと、動物福祉の取り組みや動物園運営が行えるような条例などの法的整備について記載しております。

次に、22ページをごらんください。

行動指針についてです。

こちらは、生物多様性の保全、環境教育の推進、来園者のおもてなし、動物福祉の観点からの行動指針となります。

次に、23ページをごらんください。

行動指針の続きでして、チームワーク、コンプライアンスの観点から動物園職員のあり方について記載しています。

次に、24ページをごらんください。

検討経過といたしまして、これまでの検討部会や職員プロジェクトについてを記載しております。

次に、25ページをごらんください。

来園者アンケート結果やビジョン2050の策定に伴う市民意見の反映に係る取り組みについて簡潔に記載しております。

最後に、26ページをごらんください。

まだ記載はありませんが、円山動物園の概要として、開設年月日や主な繁殖実績など、動物園の概要がわかるものを簡潔にまとめたいと思っております。

○吉中委員長 この後に意見交換がありますので、そこで具体的なお意見を出していただくとして、今のご説明に対して、わかりにくかったところなど、ご質問がございましたらお願いいたします。

○佐藤委員 21ページの動物福祉に配慮するため~~に~~の三つ目についてです。

獣医師職を継続的に確保できる制度の新設を目指しますとありますが、今の体制のままでは獣医がいなくなってしまうこともあり得るのですか。

○事務局（神経管理課長） 今の札幌市の獣医師職の確保の仕方についてです。

衛生職ということで採用しております、その方々の中に獣医師の資格を持っている方がいれば、動物園に配置しているのが現状です。ですから、動物園で獣医師の仕事をしたいということであっても直接的な採用の仕方はできていないのです。

これまでは、衛生職の中に運よく獣医学部を出た方がいらっしゃり、うまく対応できていますが、これから先も人材が確保できるかということがあるのです。

○佐藤委員 そんな恐ろしいことになっているのですね。

○事務局（加藤円山動物園園長） 薬剤師などと一緒に衛生職として採用されるわけです。

ですから、今までは年に1人や2人の獣医師免許を持った人が入っていますけれども、そういう方が何年も試験に受からなかったら、獣医師はずっと入ってこないのです。

また、獣医師免許を持っている方もいろいろなことを目指していて、動物臨床を目指す人もいれば、公衆衛生を目指す人もいます。市役所など、自治体に入ってくる人は公衆衛

生に興味があって、保健所で働きたいという方が多く、そういう動物園があまり好きではない人もいます。

そのため、この先、永続的に動物福祉を守るために獣医医療を充実しようとするれば、動物園獣医師を募って採用するべきではないかということです。

○佐藤委員 そんな綱渡りの状態で動物園に獣医師に来てもらっているとは知りませんでした。ですから、なぜこれを決めなければいけないのだらうと思ったのですが、そういう状況だったのですね。

○福井副委員長 重要な議論だと思いますので、補足説明も兼ねてお話しいたします。

私は大学で獣医学の教育をしている人材育成の立場の者ですが、今現在の日本の獣医学教育の中では、動物園動物あるいは野生動物の健康管理にかかわりついて、予防や治療に加え、麻酔をかけたり、殺処分をしたり、命にかかわる臨床に関する授業ものはカリキュラムとしてはありません。

「野生動物学」という科目ものがあって、その1単位の中に「動物園獣医学」の内容も入りましたが、6年の中で1コマ程度あるかどうかです。これをしっかりとやっていたらまだいいほう方で、大体は地域のごとに非常勤講師やとして動物園の獣医や野生動物の獣医などを雇って行っておりわれております。北大の獣医学部は、野生動物学教室がありますけれども、動物園臨床に関しては一部で、「動物園学」という授業カリキュラムを設け、道内の動物園獣医師によって賄われている現状ですます。

ですから、動物園獣医師としての技術という面においてのことですが面での課題について、犬、猫、牛、馬や鶏ぐらいのといったペット・家畜の基本的な臨床技術を持って、犬や猫の臨床に関わるかかわる内科や外科ができる、あるいは、大動物臨床の教室を出ていればいいほう方です。彼らは、犬、猫、牛、馬や鶏に対し、注射を打ったり、聴診したり、診断ができます。ただが、多くの動物園に入ってくる新しい人材、特に新卒の獣医というものは、解剖学学教室や、病理学、寄生虫学、や感染症学など、すごく特定の狭い基礎領域しか学ばずにを専門として入ってくるケースがあるので、犬、猫、牛、馬や鶏への注射や採血すらまともにできない状態というのがなので、ライオンやゾウの治療ができるわけがないというのが日本全国の動物園獣医師の現状でして、す。動物園に入った後に、先輩にしっかりと習ったり、あるいは、アクティブな方であれば、外に出て行っていって、研修を積んだり、技術をトレーニングしていくことになります。

そのため、正直、臨床技術だけを見ると、犬、猫、牛、馬の獣医のほうがよほど高い技術を持っていますし、彼らと連携すれば、動物園動物や野生動物の臨床技術は飛躍的に上がると思います。そこで、大学の役割は非常に大きく、今後、授業カリキュラムの整備や卒業教育のプログラムをつくったり、動物園界で技術の交流を促したり、いろいろな課題があることは伝えておかなければなりません。

そこで、提案ですが、実施体制や行動指針に獣医学の充実とありますよね。人材を確保することがそうですし、確保した人材を育てるための卒業教育プログラムとして、積極的

に海外派遣したり、国内でしっかりと診療しているような動物園に派遣したり、あるいは、大学を利用してもらったりなど、そういうことでトレーニングさせていってはどうかということです。

また、入れ込めるかは議論の余地があると思いますが、飼育技術のほうは、動物専門員の資格を明示し、目指すことにしたので、それならば獣医についても専門医を目指していくという文言を入れたらどうかと思います。

—日本野生動物医学会があって、認定専門医という野生動物医学に関する確立された唯一の専門医制度があります。その中の一つとして、動物園動物医学があります。

—参考までにほか他のものも言っておきますがに、水族医学、鳥類医学、野生動物感染症病理学、感染症学病理学、野生動物医学の五つぐらいがあります。そこで、少なくとも、円山動物園に入ってきた獣医は、今後5年や10年の間に専門医資格を取るための努力をするということが行動指針に入ってもいいのかなと思いますし、スキルアップするため専門医資格を持つ技術・のモチベーションの高い者を全国から雇うということでもいいのかなと思います。動物園獣医は、獣医の中でも

—すごく人気の職種なので、全国公募すれば恐らく何十倍となり、熱意のある優秀な人材が来ると思います。そういう熱心な人材の確保にも門戸を開くというのにはありなのかなと思います。

—間違いなくすごく人気のある職種ですので。

○佐藤委員 獣医師の資格があって、そこから研究や実績や論文があって専門医に認定されるのですか。

○福井副委員長 そうです。論文を書く、学会発表する、学会に参加して、情報を取り入れるという受験習熟資格認定条件があって、最低5年間はその関連分野にかかわることになります。そして、最後は試験で、筆記試験と面接と実技があります。例えば、ウズラを前にして、採血したり麻酔をかけたり、そういう実技が試されます。ですから、ぱっと新卒で入ってきて、犬、猫にすら注射ができない人は間違いなく受かりません。動物園なんかで5年ぐらい研修を積んで、一生懸命勉強した暁にようやく受験資格が得られます。ですから、その人が優秀で、しっかりと勉強すれば、最短で5年で資格を取れます。

—できれば、せっかくこれだけの立派な指針をつくるのであれば、動物園専門医員のみならず、獣医のほうも努力しようとしたほう方がいいのかなと思います。

○吉中委員長 実施体制のところもそうですが、16ページにも質の高い獣医医療の提供のところにもう少し書き込むといいのかもしれないね。

○福井副委員長 21ページの安定した獣医医療を提供するためというところか、22ページの動物福祉に配慮するための(2)でしょうか。円山動物園で動物の健康を担う立場の獣医師やスタッフに関し、卒後もしっかりと研鑽して、常に質の高い獣医医療を心掛け、その一つの通過点として専門医の資格を取ることですね。また、その情報を学会や論文を通して積極的に国内外に発信していくということですね。まさに、円山の獣医が日本

全国の獣医学を引っ張っていくぐらいの気持ちが必要ですね。

○福津委員 いいと思いますね。盛り込めるのならばという内容ですし、思いのある勉強してきた学生が現場に入ってから先輩に教えてもらうのはそうかと思いました。そういう全国の動物園で働くことを志す学生たちの登竜門になるというか、そういうことを勉強するのだったら札幌円山動物園が積極的に受け入れてくれるという場づくりというか、アピールをするのは、これから円山動物園がどうしていくというところに通じると思いますし、一般市民が見たときに目指すものが伝わってくるというか、わくわくするいい感じだなと思いますね。

話は違いますが、市民ホールができますとなったら、ただ箱ができるというだけではなく、座つきの照明や音響について全国から目指す人たちが出てくるのではないかという期待感もあります。動物園でも座つきの飼育のプロではありませんが、そういう人たちが張ってくる登竜門みたいにして、全国または海外からそういう技術を持った人が現場で切磋琢磨しながらできる場所だというアピールができればいいですね。

今からで間に合うのかなとは思いますが、もしそういう思いがあるのであれば、今年からや来年からということではなくても、そういうことを将来的に目指しますということをご構想に入れるのはありだと思います。

○佐藤委員 もう一つ聞いてもいいですか。

上の行にある動物栄養学、動物心理学、動物看護学というのは獣医師の勉強の中でされることなのですか。

○福井副委員長 動物の栄養学、心理学、看護など、動物専門員の専門性とありますが、少なくとも動物専門員たる者はそれを理解しておかなければならないと思います。また、冒頭には獣医医療がありますが、獣医師はもちろん理解していなければならないということですね。

ただ、大学の現状として、特に動物園の動物、野生動物種と考~~えれば~~に~~関しては~~、栄養学、心理学、生態学、あるいは看護学の~~授業カリキュラム~~というの~~は~~はほぼゼロで、~~多くは卒業してから独学となるか~~と思います。~~数%あるかどうかです。~~

○事務局（神経営管理課長） 教科がないのですね。

○福井副委員長 はい。

—「野生動物学」があるので、その中に入れ込んで、どれだけ野生種の生態や栄養学を教えられるか、また、オムニバスであろうと、非常勤講師としてでも自前で~~教えられる人材を~~確保できているかということだと思いますね。

○佐藤委員 海外の動物園の実態として、そういう職種が確立している動物園があるというような調査結果があつて、それもあつてのことかと思つたのですが、どうですか。

○事務局（加藤円山動物園園長） 栄養学や心理学など、そうした専門家を海外の動物園では少しずつ配置していつていると聞いています。例えば、動物の餌についても、全部の

種について、栄養士が1週間分の献立を立て、それに基づいて餌を与えるということが行われています。

これは2050年までのもので、30年スパンで物を考えるということであればそういうことも必要だろうと思います。動物専門員も新人や転任がおりまして、年をとれば退職して、また補充していくわけですが、そういったときにこういうスキルを持った人を採用できればと思います。

○福井副委員長 人材は限られていると思うのですが、人がキーであり、宝となると思います。そこで、動物専門員について、興味を振り分けて、栄養学に興味のある者は円山動物園の飼育動物の栄養をしっかりと勉強し、自分が動物の命を握るのだという責任を与え、また、行動や生態に興味があれば、そうした動物の心を読む心理学をしっかりと勉強するなど、そうした役割分担して、海外の情報も徹底的に調べ、みんなが同じことをやるのではなく、それぞれの専門的な見地で役割分担してやれば、かなりいいものができるのではないかと思います。

○事務局（加藤円山動物園園長） きっと、大学では、動物心理学だと、獣医学ではなく、文系の学部になるのでしょうか。北大では文学部のほうにあるはずです。

○福井副委員長 酪農学園大学には看護学科がありますので、そういったところの人材を1人2人でも入れておけば、そこはカバーしてくれるかもしれませんね。看護というのは、相手の心を読んできめ細やかなサポートをしてあげるということで、独特な技術ですよ。

○吉中委員長 ほかにご質問はありませんか。

○福井副委員長 もう一点です。

—先ほど福津委員がおっしゃられましたが、海外も含め、外から技術のある人間が来るのは育つためには重要な課題だと思います。

動物園を開かれた場とし、国内外から研究者や技術者が来てみたい、見てみたいと思えるような研究機関、獣医医療、動物の飼育技術を提供できるようにする、それこそ、研究ラボみたいなもの、生物多様性保全センターと書いてありましたが、それをつくって、とにかく技術を情報を少しでも落としてくれる、さらには、技術を学べるなど、そういういい循環をつくれるようにするために打ち上げられるものがあるといいですね。

○福津委員 円山動物園で学んでいるのだったら安心だねとどこの動物園にも言ってもらえるぐらいのちゃんとした飼育を初め、全体的にバランスよく勉強できるようになればすばらしいですね。

○福井副委員長 北大と酪農学園大学があり、かなりいい環境が整っていると思いますので、できると思いますよ。

○吉中委員長 それでは、中身の意見交換の前に、これからどんなスケジュールで進んでいくかについてご説明いただき、それも含め、全体的な意見交換をしたいと思います。

○事務局（高橋調整担当係長） 先ほど吉中委員長からもありましたが、検討部会の次第にあります報告のイ)の今後のスケジュールについてです。

まず、動物園は環境局の所管になりまして、環境局の課長会議は既に終わっておりますが、関係部課長会議で協議し、環境局以外の庁内の関係部長会議や市民動物園会議などに報告いたしまして、市長、副市長に説明するとともに、議会説明をして、市民意見をいただくパブリックコメントを経て、年度内の2月には確定、公表したいと考えております。

○吉中委員長 スケジュールについて何かありませんか。

○事務局（加藤円山動物園園長） 内部議論が全然進んでいない段階なので、ここに書いてあるものが変わっていく可能性があることはご承知おきください。

○吉中委員長 ほかにいかがでしょうか。

それでは、今日のこの後の意見交換の結果はどこに反映されるのかを教えてください。

○事務局（神経営管理課長） 全てを盛り込めるかどうかは別ですが、これから札幌市での会議等に諮る前に可能なものは入れ込んでいきたいと思っております。

○吉中委員長 それでは、そういうことも頭の隅に起きつつ、ビジョンをさらにいいものにするべく皆さんとの意見交換を行いたいと思います。

神課長、進行をお願いいたします。

○事務局（神経営管理課長） 冒頭に吉中委員長からお話がありましたが、前回の3月の検討部会で委員の皆様からいただいた意見を反映したものを4月4日の市民動物園会議で報告させていただきました。

大きい変更としては、例えば、基本理念にあります保全と教育の2本柱について、地球全体のことと、地域として、北海道、札幌、円山という二つの視点で整理しております。そういった部会の検討を踏まえ、市民動物園会議に報告させていただきましたが、いろいろな意見が出ましたので、この場をおかりしてご説明いたします。

1枚物の資料をごらんください。

こちらが市民動物園会議で出た主な意見です。

まず、円山動物園の目指す未来にかかわるご意見についてです。

1ページに模式図で木がありましたが、木の周辺は連携機関という整理でしたが、もうちょっと整理したほうがいう話がありました。また、なぜ2050年なのかをしっかりと説明する必要がある、未来の子どもたちに夢を抱かせる内容にしてほしいということがありました。

次に、3ページ以降にかかわるご意見についてです。

動物園外の保全のいろいろな取り組みに積極的にかかわっていくことをもっとPRすべき、生物多様性センターとありますが、円山動物園や円山地区でどんなことをやっているかを具体的に書いたほうがいいのではないかということがありました。

なお、9ページには、フィールドミュージアムとありますが、このような形で、できるだけわかりやすい表現にしております。

次に、11ページ以降にかかわるご意見についてです。

ビジョンの13ページをごらんください。

リ・クリエーションについてですが、検討部会を受けて、レクリエーションからリ・クリエーションという言葉を出させていただきましたが、この言葉について、造語を使ってよいのかということがありました。使うのであれば、リ・クリエーションという言葉を再び創造するという意味合いで再定義するのであればよいのではないかとということです。

また、動物福祉なり、いろいろなところにある「第一に」や「何よりも」という最大級の表現はできるだけ控えたほうがよいのではないかと、民間の動物園との違いをちゃんと入れるべきではないかとということがありました。

○福井副委員長 探し切れなかったのですが、民間動物園と違うミッションについてどこに盛り込まれたのですか。

○事務局（神経営管理課長） 市民動物園会議ではそうした話があったのですが、民間と公的などころという動物園のくくりで整理していませんでした。そのため、こういったご意見があったのですが、書き込めてはいないですし、公立だからという内容にはなっておりません。

○事務局（加藤円山動物園園長） 基本的に、JAZAのメンバーである動物園、水族館は、民間であろうが公立であろうが同じだということです。

○事務局（神経営管理課長） 次に、19ページ以降の実現するためにに関するご意見についてです。

実施体制はこれから説明させていただきますが、絵に描いた餅になるようなものを出しても総論賛成で終わってしまうので、きちんと目に見えるものを書いたほうがいいのではないかと、市役所の内部の協議がこれから進んでいく段階においては具体的な施策レベルのものを盛り込んで協議に臨んでほしいということがありました。それから、コレクションプランという言葉について、市民にはわかりにくいのではないかと、宝物を集めるようなイメージで、ネガティブな印象を与えてしまうので、別な言葉に置きかえられないかということでした。

そのため、その意味合いをもう少し丁寧にしたいと考えておりますが、今回お配りしたのものにはしっかりと書き込まれておりません。これは、内容を見ていただければわかるかと思いますが、冒頭どこまでコレクションプランの説明をするかだと思います。

それから、行動指針について、22ページ以降になりますが、このビジョンが保全、教育、調査・研究、リ・クリエーション、動物福祉という流れになっているので、この流れに沿って整理したほうがわかりやすいのではないかとということで、そうした視点も盛り込み、項目分けをしております。

裏面になります。

全体を通しての意見についてです。

身近なエピソードや動物の写真を入れると市民の見られた方の心にぐっと入り、動物園が変わっていくことが伝わるので、そういった配慮をしてほしい、この冊子は厚くて難しいので、概要版的なものをつくったほうがよいのではないかとということがありました。そ

して、ビジョンの裏表紙になりますが、編集、発行は円山動物園となっておりますが、これは札幌市がつくるものなのか、動物園がつくるものなのかということが出されました。

ここはまだ直っておりませんが、こちらは札幌市として外に発表するものになります。内容の検討は動物園でやりますが、最終的には札幌市長に説明し、了解されたものとなりますので、修正する予定です。

次に、スペースがあいて、ずらずら記載されてあるところについてです。

今回、市民動物園会議の委員に「p o r o c o」という雑誌を発行している北海道生活という編集会社の編集長を務めている方がおります。愛を持ってのことだと思いますが、その方にプロの目からの非常に厳しいご意見がありました。どこまでできるかは私たちの力量にもかかわりますが、この冊子は、誰がつくって、誰が読むのかが見えない、円山動物園職員が同じ知識を持ちましょうという教則本的なものであればいいのですが、市民向けであればもう少し検討が必要なのではないかと、1項目ずつただ並べられているような印象があり、カラフルにデザインして写真を並べるだけでは読もうという気になれないし、頭に入ってこない、読者にわかってもらおうとする工夫が足りないのではないかと、冊子として出すなら編集をしっかりとやったほうがいいということが言われました。

また、これは恥ずかしい話になりますが、2050年ということについてです。円山動物園は1951年に開園しているので、2050年は100年目になる、だから、開園から100年経って動物園がどういうふうになっていくのかをビジョンの中で明示すればわかりやすいのではないかと出されました。

そこで、副題として「開園100年に向けて進む道」とつけさせていただきました。

また、これから、市長挨拶文など、いろいろと入ってきますが、そこでも円山動物園が開園から100年でどうなっていくのかについて整理したいと思っております。

次に、これまでの間にどういったことがあったのか、例えば、森が消えたこと、あるいは、オオカミが絶滅したのは100年ぐらい前になりますが、そういったことを書き、過去の歴史をちゃんと説明した中で未来が描けるのではないかとということです。

また、北海道の動物園として円山動物園はどういうところなのか、帯広や釧路と比べてどうなのか、円山でなければならぬものがあるのではないかと、そういうことを書いたほうがいいのではないかとありました。

これから、この冊子の印刷に当たってレイアウトなども検討しますが、編集作業によりどこまで読みやすいものにできるかは課題として考えておりますが、動物園としてこういうことを目指すという教則本とする予定です。でも、市民の皆様にもわかりやすい簡易版のような概要版は必要なのかなと思っております。

また、皆様にお配りしたA3判の資料は、市民向けというよりは、これから庁内で説明していくときのものでして、中身を整理しているというよりは、何とかA3判両面にまとめたもので、これを市民に出すわけではありません。ただ、2050年に向けてどういう動物園を目指していくかがわかる市民向けのものが必要なのではないかと考えております。

市民動物園会議からのこうしたご意見を受け、できるものは変更しておりますが、今日ご議論いただきたいのは19ページからとなります。

前回の検討部会では、考え方の説明はしてございましたけれども、詳細なお話ができおりませんでしたので、コレクションプランから順にご意見をいただければと思います。

コレクションプランについて、担当の総括係の主査の朝倉から簡単にご説明いたします。

○事務局（朝倉飼育展示課主査） コレクションプランについて説明いたします。

コレクションプランについて、飼育係を中心に内部で検討いたしました。もちろん、ビジョン2050という目標を達成するためのものになります。考慮すべき項目として四つを挙げましたが、そのうち、Aの保全とBの教育というビジョンの中でも基本方針となるものをしっかりと達成するために必要な種かどうか、あるいは、Cの福祉の確保とDの飼育の持続性がクリアできるかということで分けておまして、米印で書かれている推進種、継続種、撤退種の判断基準にこれらがかかわってきます。

先ほど高橋からも説明いたしましたが、この三つの種類について改めて説明いたします。

推進種は、保全と教育の両方をやる必要があります、さらに、福祉を確保でき、将来的にも持続性がある種としております。

継続種は、AまたはBの必要性があるということで、全てが保全の必要な種ではありませんが、教育をしていく上で重要な種、あるいは、教育はほかの部分で背負ってもらうことはできるのですが、保全に力を入れなければいけない種となります。

撤退種は、CまたはDの実現が困難な種です。今回のビジョンでは、動物福祉を大きく出しました。ですから、ビジョン2050を達成するために保全や教育に重きを置く必要があっても、動物福祉をどうしても達成できないといえますか、考慮して飼育できない種、または、日本国内や海外も含め、将来的に持続性がないものとしております。また、この22ヘクタールの広さの中でどう種を考えていくか、ほかの種と比較してということもこの基準とさせていただいております。

このAからDの四つの考慮すべき項目をもとに、動物種について、それぞれ内部で判断し、主立ったものを載せています。

もう一つ、内部で出た考え方として、小型種については、生物多様性を伝える上で何をメインにするかによって判断が変わってくる可能性があるのかなということは考えております。それを踏まえ、今後も変化があり、大体の数字として押さえていただきたいのですが、九十数種のうち、推進種が60種類ぐらい、撤退種が30種ぐらいという結果が出ております。

次に、施設整備についてです。

今後、コレクションプランから想定される施設整備として、一つは、北海道にある動物園として、北海道の動物園に道外から来ていただいた方や地元に住んでいる方々に北海道の野生動物を伝えるための北海道ゾーン、現在、熱帯鳥類館を中心として、南米の動物として飼われているものを集約する南米ゾーン、保全教育を行うに当たっての入り口と位置

づけ、人間以外の命を実感できる場所、触れ合いを充実させる場所としてのこども動物園、また、オランウータンを中心とした動物を飼育する類人猿館を挙げました。

先ほどコレクションプランについて説明させていただきましたが、保全の必要性は時の流れによって変化すると考えておりますし、ビジョンに基づく実施計画5年間の策定に合わせてということですが、ある程度の期間で再検討する必要があるということも考えております。

○事務局（神経営管理課長） コレクションプランでは、どこまで具体的に動物種を挙げたらいいのかは悩みました。円山動物園としての考え方は、どこかで出さなければなりませんので、それがこういう形となります。例えば、シンリンオオカミとありますが、これはパブリックコメントで市民の皆さんが知ることになりますが、これはどうなのかという議論が巻き起こるかもしれません。逆に、市内部の話になりますが、今後施設整備が必要なもの、例えばオランウータンにつきましては必要となりますが、市として本当に出せるのかという議論が起こる可能性もあります。

ただ、円山動物園が考えるプランはこういうものだというのはまずは出す必要があるのではないかと整理しております。

いろいろな動物園がありますが、こういうふうに出しているところは少ないと思うのです。ただ、これがあって施設をどうするかや繁殖に向けて準備したり、場合によって海外とのやりとりをしなければいけないものもあり、それには相当な時間がかかるので、方向を見据えたいと思っていて、それが2050年となりますし、必要があれば5年ごとに直していくというスタンスです。

○福井副委員長 ここで今提示されたコレクションプランは、これまでに飼育の現場、園の管理者たちとも議論を重ねたもので、円山動物園としての総意として考えてもよいでしょうか最終形態なのですか。それとも、この後の議論で変わっていくのですか。

○事務局（加藤円山動物園園長） 正直なところ、こういった形で先を考えていなかったのかもしれませんが。今、アジアゾーン、アフリカゾーンは空き地がいっぱいあるのです。これは今までいた動物を移動させていただきで、今いる個体の寿命が来たらどうするのかという先手を打ってこなかったがゆえに、新しい施設が空いてきているのです。

一旦は5年ですが、先々を見据えて、ホッキョクグマは飼育、展示し続ける必要があるのであれば、今いる子たちがいなくなった時にどこかが持ってくる手だてを先に持っておかなければいけないのかなと考えております。

また、話がありましたけれども、推進種として動物園で考えているのだけれども、そんなにお金がかかるのなら札幌市としては無理だとなるかもしれません。逆に、撤退種となっているけれども、重要だから投資すべきではないかということがあるかもしれません。そのため、市の内部の議論で大きく変わっていく可能性はあります。

○福井副委員長 シンリンオオカミは、円山動物園の中では割とシンボリスティックな動物種で、全国から、あるいは、市民の人気も高く、これについては意見が来るかもしれな

いという気がします。

また、ゼニガタアザラシは、希少種であるり、その反面、漁業被害があるということのため、北海道としては共存を考えていかなければならない種ですよね。

ですから、シンリンオオカミはどこどこか他の動物園でやるから札幌市でやらなくてもよくて、そこに任せる、ゼニガタアザラシもどこかどこがやるから任せるというフォローまで考えられるといいかもしれませんね。うちはやらないけれども、あそこがやるからそこに任せる、ただ、その協力は惜しまないという役割分担ですね。

地域ごとの収集計画というのは、各園のコレクションプランのポイントにもなりますが、北海道の地域収集計画をもって整理して、その中での対象種ごとの保全に係る役割で、円山動物園はここをやる、ここはこの別の動物園がやる、これは、北海道だけの種ではなく、世界の動物種に関してはここがやるなど、理由づけについてももう少しすとんと落ちるものがあると思います。

○事務局（加藤円山動物園園長） また、最終的に撤退種となったとしても、すぐ撤退するものと、今いる個体が老齢になり、終生飼育をした後に次を入れるという選択もありますし、若くて繁殖のチャンスがあるものは別の福祉を守る動物園に移すということはあると思います。

○佐藤委員 動物福祉を考えれば考えるほど、一つの動物園が何でもかんでもかき集めて見せればよいという時代ではなくなっていることは確かですよね。そうしたら、今、動物園では、一つで考えるのではなく、北海道の中ではとか日本の中ではとか、世界の中では円山動物園はこういう立場で、こういう部門を担当しますというものにしていかなければならないのかなという気がしますね。

シンリンオオカミも、生きられるだけのスペースがあればいいというのではなく、動物福祉を考えたら本当はもっと広いところを走らせたいということで、無理やり狭いところで飼いつけることは必要ないということですか。

○事務局（朝倉飼育展示課主査） 広さについてはほかの動物でも当てはまることだと思うのですが、オオカミがもともと持っている雄の中で順位がつくということがあり、雌も含め、群れとして継続的に飼えるかとなるのですが、それが私たちの技術ではなかなか難しいのではないかとということが出ました。

広さは全ての動物に当てはまるのですが、狭い空間でも野生として持っている能力や生態をどう表現させ、どう実現させるかを考えると、オオカミは高いハードルとなるだろうと考えたのです。

ただ、福井副委員長からもありましたけれども、この動物は飼えないというのではなく、円山動物園で役割を負う種類としてどうするかですので、いろいろな園館の協力体制で進めていくというのはそのとおりだと考えております。

○福井副委員長 これからの動物園は、3種の神器と言われているライオン、象ゾウ、キリンをそろえることは不可能で、それぞれを絶滅させないがために、専門性を持って種を

絞らなければ、結果として守ることができないということがあるので、そういう観点からこの種をとというのはアピールすべきですし、市民に理解してもらうことが必要で、そのための普及も非常に大事になると思います。

お荷物となったものをやめていくというような雰囲気にとられてはだめなので、そうではなく、その動物のことも考えつつ、より優先度を持って保全に取り組み、みんなに知ってもらいたい動物を守るためにやむを得ないことで、そこに全力を注ぎ込むのだという考え方ですね。

これがコレクションプランの基盤になる考え方であり、普及しなければいけないと思います。

○佐藤委員 市民動物園委員の意見に魅力的なパーク構想の青写真が欲しいとあるのですが、コレクションプランの中に、施設計画を含め、円山動物園が将来はこんなすごい動物園になっているというイラストが描ければいいですね。

○事務局（加藤円山動物園園長） そうすると、そちらに引っ張られてしまうのです。

整備計画はこの下につくる実施計画の中で具体化していければと思っております。

○事務局（神経管理課長） その中でも何とか入れたいというのが三つ目のプランから想定される施設整備はこうですというもので、今回、北海道ゾーンや南米ゾーンと入れ込んだのです。

ただ、できれば次の実施計画の中で北海道ゾーンぐらいはイメージ化したいと思っております。

○佐藤委員 旭山動物園の話になると、できるかどうかは関係なく、とにかくこういうものをつくりたいとみんなで好きな絵を描くところから始まったと言われているのです。そこまで自由に描かないにしても、こうなったらいいのというイラストがあればいいかなと思いました。

○福井副委員長 話はずれるかもしれませんが、職員プロジェクトの中では佐藤委員がおっしゃった夢を語る作業はできているわけですね。

○事務局（朝倉飼育展示課主査） 職員プロジェクトでは、何が大事なのか、何のために動物園があるのかからスタートしました。若い者から年を重ねた者までとなるのですが、自分たちが考えるよい動物園、そして、今、世界や日本の皆様から求められる動物園の両方を出し、合わせるということを検討してきまして、それが今回のビジョンの基礎となります。

今までの会議の中でも何度かご説明させていただきましたが、福祉と教育の2本を大きく出している基本計画はほかの動物園ではあまり見ません。日本の動物園では四つの役割を進めていきたいと思いますということになってはいますが、まずは教育と保全が生物多様性を守っていくために必要だということが出たのです。職員に足りているかと聞くと、まだ足りていないと言うかもしれませんが、議論を十分にさせていただいたとは考えております。

○福井副委員長 検討部会では自分たち委員が好き勝手に述べ、現場感覚から外れた発言

もあったと思うのですが、プロジェクトとして取捨選択されたのでしょうか。

○事務局（朝倉飼育展示課主査） 職員プロジェクトにエンビジョンの方に入っていて、進行もそうですし、検討部会の報告もさせていただき、皆さんのご意見について、なるほどというふうに思ったこともあります。私たちだけでは狭くなりがちのところではあったのですが、そのような意見を踏まえながら進めました。

○事務局（神経営管理課長） 職員プロジェクトは21回やっていますが、その後、動物園の役職者の中でももんでおります。重なりも大変多かったので、そこを整理するなど、そういったことを含めてやっております。

○福井副委員長 今、JAZAのコレクションプランというかが示されたり、その中での円山動物園の役割などについて、どういった種を保存保全して行くかするなど、議論はされていないのですか。

○事務局（朝倉飼育展示課主査） JAZAから円山動物園にこれを頼むねというのは、種にもよりますし、うちで飼っているであるかなどの調整はあるのですが、これを飼って、どうにかしてくれという直接的なものはありません。ただ、J SMPという日本の種のマネジメントプログラムがつくられているのですが、それに指定されているかどうかはこれから保全していかなければならない種かどうかの判断基準として使わせていただいております。

○福井副委員長 その対象種は推進種なのですね。

○事務局（朝倉飼育展示課主査） 日本の種でもそうですし、世界でそういう種に指定されているかどうかを保全に取り組んでいかなければならないかどうかの判断に使っております。

○事務局（加藤円山動物園園長） 動物には所有権があって、JAZAでもコントロールしがたいところがあるのです。うちでは単独飼育でもいいからこれを見せるのだという、繁殖するために移動しようとしてもなかなかできないということがあります。

今、いいモデルケースになると思っているのは、域外保全の取り組みで、例えば、ミヤコカナヘビは、所有権はJAZAが持っているけれども、円山動物園に預け、円山動物園でJAZAのものを繁殖し、返すとなっているのです。そうすると、コントロールできるようになってくるので、そんなことも考えられればいいのかと個人的には思います。

ただ、なかなか難しい部分があります。

○吉中委員長 教えていただきたいことがあります。

まず一つは、コレクションプランという名称について、市民動物園会議からもありましたが、何かいい日本語はないのでしょうか。

もう一つは、これはすごくわかりやすく整理されていて、いいと思うのですが、その一方で、わかりやすさがゆえに矛盾しているところがあることです。例えば、推進種の中に北海道産動物とあり、これはAとBの両方を満たさなければいけないということですが、書き分ける必要があるのか、希少種はどうかということ。

また、継続種は、AまたはBですが、Aを満たすものは既にBを満たすのではないかということです。ここに並んでいるヒツジ、ライオン、アライグマはBかなという気がするのですが、Aだけの種はあるのかです。

わかりやすさゆえに落ちないところが出てくるのはしょうがないと思うのですが、その辺を教えていただければと思います。

○事務局（朝倉飼育展示課主査） 効果として大きいかどうかになるかだと思います。その動物を飼育している上では教育効果がゼロということはないのかなと思います。

確かに、Bの継続種であれば、種の選定の中でいうと、保全の必要性はそれほど高くないけれども、教育的価値があるものが多いと思います。ただ、先ほども言いましたが、結局は他種と比べてとなるのですが、保全性は高いけれども、教育的なものからいうと、もっと効果的に伝えやすい種があるというのはあります。しかし、それも推進種に分類されているものが多いのかなと思います。

あわせて、北海道産動物に関して、確かに、保全の必要ない種も後段にある北海道ゾーンでの飼育を考えており、北海道産動物とまとめさせていただいたのですが、その中でもどれに取り組むのかです。今の段階ではそれほど希少な種ではないけれども、将来的なことを考えて取り組んでいくものとして載せました。しかし、委員長の言うように、はっきりと分けただけに、中間となるものが出てきているのは確かです。

○吉中委員長 推進種、継続種、撤退種のところをもう少し定性的な書き方にすることはあるかもしれないと思いました。特に、保全あるいは教育・メッセージ効果の高いものなどですね。余りにばつんと分けるのはね。わかりやすくていいのですが、後でいずくってしまうのではないかと思いました。

○福井副委員長 ちなみに、「コレクションプラン」の日本語訳は、「収集計画」になりますね。

○オブザーバー（金子） 動物園用語としてはこれで正しいのだと思うのです。ただ、一般の人や子どもから見たら、コレクションというと昆虫採集というイメージに見えてしまうのです。確かにそうなのだろうけれども、言葉の響きとして適当なものがあれば思ったのです。

ただ、これが動物園の用語ですということであれば、いたし方ないのかなという気がします。

○福井副委員長 戦略的優先種というような意味合いですよ。

日本人なので、コレクションを集めるという意味合いとかぶってしまいますので、確かに違和感はあります。でも、海外では、自分たちが感じる意味合いではなく、戦略を持って動物園がしっかりと力を入れていかなければならないということになると思うのですが、そこにギャップはあります。グローバルにはコレクションプランで通用するのですが、日本人の印象はそうだと思うので、それであれば違う言葉を置いて、括弧してコレクションプランとするしかないでしょうね。

○佐藤委員 これに代わるように固まった日本語はあり得ないでしょうね。

○福津委員 今のお話を聞くとこれ以外にないよなと思いました。

○佐藤委員 あとは、その下にコレクションプランとはとするしかないですね。

○事務局（神経営管理課長） もう少しわかるようにするということがあります。

○佐藤委員 ここに参加していますとコレクションプランでいいと思いますが、市民動物園から違和感があると言われているのですよね。ただ、それだよねという日本語が思いつきようがないので、コレクションプランとはこういう考え方ですという説明を入れるしかないと思うのです。

○福津委員 収集計画にいれば印象がすごくよくなるというものでもないですよ。

先ほど木の幹の説明が要らないのではないかと思います、これがあつたほうが丁寧ですよ。でも、これも誤解のないようにということですね。同じように、コレクションプランももうちょっとつけてあげれば、そのままいいのではないかと思います。

○佐藤委員 これから世界の動物園の話と入ってくる時にコレクションプランとなるでしょうから、自分がそちらに寄るしかないかなと思います。

○福津委員 これからの動物園を考えるとコレクションプランがすごく大切なことだということを市民がわかる必要があるのではないのでしょうか。象やキリンがいるのが動物園ではなく、これからの将来を考えて、まずはこういうプランを立てることが大切なのだという説明があれば、そのためのコレクションプランだということが理解できると思うのです。それがなく聞くと、上からというか、わがままに聞こえてしまうかもしれないですね。

○福井副委員長 そのとおりだと思います。必要性を述べることと定義づけを簡単にすることで理解のされ方が違うと思います。

○事務局（神経営管理課長） それでは、コレクションプランという言葉はそのまま使い、説明を丁寧したいと思います。

○福井副委員長 もう一つ、日本人であれば、野生捕獲というイメージまであると思うのです。しかし、世界ではそんなことはなく、円山動物園でもないわけです。今いる繁殖個体をどう引き継いで後世に残していく、ひいては、野生動復帰も含めた飼育個体群も持続的に維持するためにこれがあるということはしっかりとアピールしたほうがいいと思います。

ニビジョン2050の中に動物園の動物の多くは、は飼育下→繁殖個体でという説明はあったのか。

○事務局（神経営管理課長） 書いていないですね。

○福井副委員長 それも動物園の役割として書いた方ほうがいいと思います。

○事務局（神経営管理課長） 今、市の内部で言われているのは、保全なり環境教育なりで動物園としてはこういうことをやりたいと言っているというのですが、一般の人は動物園がそんなことをやるとは全然思っていないのです。動物園としてどういった課題を持つ

ているのか、簡単には動物は飼育できませんが、どうやって環境を確保しなければならないのか、また、環境教育になぜ取り組むのかなど、それをしっかりと説明しないとすとんと落ちないので、副委員長から言われたことはそういうところで話ができるのかなと思います。

○福井副委員長 市民とのギャップはあって、その普及は大きな課題ですね。そこは戦略を持ってやったほう方がいいかなと思います。

多分、わかってくれますよね。

○吉中委員長 コレクションプランにこだわって申しわけないのですが、ほかの章立てのタイトルは説明調で、「動物のこと環境のことを探求する」などとなっているので、4文字熟語にするとか、変えるだけではなく、IV-1のタイトルも「今後飼育していく動物種を選定する」など、そういうやわらかい言葉にして、その後にコレクションプランと書くというようなことを検討してはどうかと思います。今後飼育種を選定する方針など、そういう説明調ではどうかなという気がしました。

○福津委員 それだと伝わりますね。今のはいいと思います。

○事務局（神経営管理課長） 確かに、流れるにはそういう易しい言い方のほうがいいかもしれませんね。ここでコレクションプランとなるのはということがありますので、検討したいと思います。

ほかにもまだありますので、コレクションプランについては終了させていただきたいと思います。

次に、21ページの実施体制についてです。

前回の検討部会では、行動指針の中に組織体制を入れ込んでいました。委員の方々から、これは組織体制なので、別にしたほうが良いということがありましたので、今回は実施体制の中で組織体制と経営基盤について整理させていただきました。

人の確保や組織のことなど、かなり踏み込んだ内容になっております。皆様にお見せする前はもう少しはっきりした書き方でしたが、市として出すのであればもうちょっと曖昧にしてくれということがありました。また、そもそも実施体制について、人事サイドからは載せるなどまで言われているのですが、動物園としては覚悟を持って、金子先生からは喧嘩をしてこいということでしたが、勇気を持って、やっとここまで出せる内容にしました。

そこで、どういったところが足りないのか、修正したほうが良いなど、ご意見があれば頂戴したいと思います。

○吉中委員長 これもすごくわかりやすくなって、素晴らしいと思います。

ただ、実施体制と行動指針の両方を見比べたとき、特にコンプライアンスについてです。今日も出ていましたが、動物園の運営をもっとオープンにする、あるいは、パートナーたちとの連携をもっと深めていくためにもできるだけ外とつながった運営方針とする、あるいは、技術の交流も含め、赤色の字で出していただいた5は結構重要なかなと思います。

これらは、職員一人一人の行動指針というより、組織体制、実施体制のほうがじっくりくるのかなという気がいたしました。

○事務局（神経営管理課長）　こういうことをしっかりできる組織体制をつくるという書き方ですか。

○吉中委員長　オープンな動物園運営を確保するためには、一人一人の意識も大事ですが、システムとしてそういうものがあるべきではないかということです。例えば、こういう会議もその一つだと思いますが、コンプライアンスのところを個人と組織と分けてもいいのかなということです。

○事務局（神経営管理課長）　個人情報をちゃんと出ささいというところについて、前回、福井副委員長からもそういったお話があったかと思いますが、吉中委員長から実施体制に入れたほうが良いという話もあった気がします。

ただ、システムのということであれば、確かに、行動指針よりは組織体制に入るかと思しますので、実施体制に入れ込みたいと思います。また、かかわるものは行動指針に残してもいいのかなと思います。

○佐藤委員　組織体制のところ、動物福祉に配慮するための最後のポツに園長職が長く在職できるようにということがあるのですが、これはすごく大事なことなのかと思います。専門職の人が入ってきて、さらに、そこで磨かれて、育っていき、ずっと動物園にいてくれる体制がないと、先ほどのコレクションプランも途切れ途切れになってしまうのかなと思います。コレクションプランを支えるためにも専門の人が続けて動物園にいてくれる体制をつくっていただけたらいいなと思います。

○事務局（加藤円山動物園園長）　多分、2050年になれば、今入ってきた動物専門員がそこそこいい年になります。10年ぐらいしたら今いる動物専門員が飼育の係長になって、10年ぐらいすれば課長になって、10年ぐらいすればもしかしたら園長になるというようなスパンです。ですから、それまでをどうつなぐかがあります。

また、先ほどの獣医師の話に戻りますが、今、獣医師で園長になれる人はおりません。それは年齢も経験も考えてです。いわゆる札幌市の部長職に足るような年齢と経験を持った人がいないのが現実です。

専門職であれば一番いいでしょうけれども、必ずしもそればかりではないのです。でも、少なくとも、長期スパンで物を考えるとき、一定程度の期間をやるというのがまずは大事です。

○福井副委員長　加藤園長は、幅広い視点を持ち、議論にも十分に馴染んで参加されていますよね。しかし、全国の自治体の多くの動物園では、現場のことや動物のことを全く知らないで運営し、ギャップが生じ、うまくいかないということが課題としてあります。

○事務局（加藤円山動物園園長）　ほかの役所の役職とは違って、あなたは園長です、5年です、5年でミッションをクリアしてくださいと言ってくれたほうが良いのです。

○福井副委員長　現場を知らな過ぎる園長が運営して失敗するのは異動です。役所の型に

はめて、異動させてしまうのです。5年や10年のスパンでようやく動物のことが見えて、一人前に近づいていくので、志半ばで、まだやりたいという人がルールだからということで無理やり異動されるのです。先ほどの獣医もそうですが、動物がそんなに好きではないという人が来たり、逆に、動物がすごく好きで、天職だと言っている人が異動する出るという運命のいたずらが起こるのがは異動で、そこが日本の動物園において技術がうまく引き継がれない元凶であると思います。

○福津委員 必ずしも園長だけではなく、みんなですね。園長職と書いてありますが、みんなですね。

○事務局（加藤円山動物園園長） 飼育係は来春から全員が動物専門員となります。動物専門員は、原則、円山動物園の職員だから、長くいられます。また、獣医師については、今の制度では異動することになりますが、ここに書いてあることができれば、円山動物園に長くいられます。それで、残るのが管理職です。

○福井副委員長 逆に、異動しないふうになっていると弊害もあるのです。大して仕事もしない、向上心を持って動物を見ているわけではない、でも、重鎮として、昔ながらのいぶし銀の技術を持って、掃除して餌をやると。そういう方が残ることになります。

5時半で上がるとなると、4時半ぐらいになると事務所で座って時間を潰し、5時半になったら帰るのです。これでは、飼育係の本質としては向いていないですし、動物がかわいそうだと思います。時間外手当が欲しいわけでもない、体制が許せば、1日中、365日、動物を見ていて幸せだ、そこで得られた成果が動物に還元されるという雰囲気があれば、飼育・技術者冥利に尽きますし、その動物園の動物はハッピーになるのかなと思います。

そういう体制の構築は個々の動物園では課題になっていると思いますし、それをどううまく実行するかは一つ大きなポイントだと思います。

○事務局（加藤円山動物園園長） そのためには、きちんと飼育係なりを評価しなければいけません。この職員はこの先も円山動物園に必要な職員だということを判断しなければいけないわけで、そのためには、判断する人間もある程度長くいて、ずっと見ていなければなりません。

○福井副委員長 よくあるのは、熱心に頑張ってやっていこうという若い熱意のある人材を上から抑え込んで、やらせないということですね。あえて（飼育技術者や動物専門員ではなく）飼育員と言いますが、そういう方が全国には昔からずっといます。そういう動物園では若い力が伸びにくいですね。

○佐藤委員 行動指針に風通しのよい組織と書いてあったはずですが。組織を超えて目的を共有し、責任を持って行動しますと行動指針に書いてありますね。

○事務局（神経営管理課長） 上野動物園やよこはま動物園は指定管理者でやっていて、そこは幾つかの施設を持っていて、そこで人が動いていくのです。これはこれで人事面では機能しているのです。

○事務局（加藤円山動物園園長） ただ、飼育員では異動したら辞める人がいるみたいです。例えば、金沢動物園からズーラシアに異動ですとなったら、私はズーラシアに行きたくないので、退職しますというふうになる人もいますよ。

ただ、よその釜の飯を食うのが大事だということがあるので、人事交流みたいなことを書いてあります。北海道の動物園の中で勉強し合うということも大事なのです。

○福津委員 知らないことばかりでとても勉強になるのですが、専門的かつ経験に基づいた判断を要する園長職を長期に配置できる仕組みの構築を目指しますというところを見たら、きっと、円山動物園は2年ごとに役所から動物園のことを全然知らない人が来て、それが一番の課題だと思っているのだな、それをこれからはなくすようにしたいということをあえて書かなければならないというぐらい混乱しているのだなと見られませんか。

○事務局（加藤円山動物園園長） それは事実だからいいのではないのでしょうか。

○福津委員 というのは、知らない話がいっぱいあって、それをお聞きして一行入れたいという思いがあったのだなということが理解できましたけれども、一番最初にこれを見たときの印象と違っていたのです。誤解されても嫌だし、何か表現がないかなと思っていました。

もっと深い意味合いがこもっているのですよね。

○吉中委員長 公務員が2年や3年で部署が変わるとするのはどこでもあることなので、そこをどうするのかということですが、それでこのビジョンが生きてくればいいなと思うのです。

○事務局（加藤円山動物園園長） 誰が来てもこれに基づいてやればいいのです。

○吉中委員長 そうということが明確になって、2050年までこのビジョンに基づいてみんなやっていくわけで、園長が1年でかわっても2年でかわっても方針が変わらないのですとなるのが理想ですね。

○事務局（加藤円山動物園園長） 余りシステムチックにして、例えば5年ですとなったとき、不適合が起きたときにかわれなくなるのです。だから、一番いいのは、配置された人がそれなりに見合っていて、本人も希望していれば、ある程度の年数がいれるぐらいの緩やかなシステムにすることですね。

○吉中委員長 また、外に公開しているというか、外と情報が常に共有され、このビジョンに基づいて運営がきちんとされているのかを見られるということです。それでビジョンを守らなければいけないとなって、新しい園長もこれに沿って2年や3年やるということがどこか別のところからチェックされていると言うと変ですが、それが担保されている体制だといいいのかなと思います。

○事務局（神経営管理課長） 実際にどこがチェックするかというと、市民動物園会議がありますので、そこになるのかと思います。

○事務局（加藤円山動物園園長） 進捗状況なり、どういう状況なのかを毎年報告しますからね。

○福井副委員長 今、吉中委員長がおっしゃったことについて関連して、私もこれまでの検討部会で情報提供したかもしれませんが、「動物園法」という動物園を管理する法律が、イギリスを初め、はじめヨーロッパ諸国にありますし、アメリカにも動物園福祉法があって、ライセンスを含めて管理しているのですね。特に、ヨーロッパイギリスの動物園ライセンス法は、年に1回ないし2回、自治体や動物園専門員査察官が各動物園に出向いて、その動物の健康管理が適切に行われているかをチェックする査察機構があるのです。これは敷居が高いと思いますけれども、やるならば、円山動物園でもそうした外部の評価機構を入れていく、それは市民動物園会議なり、専門家委員会なり、動物の福祉や健康管理に関して見ていくというものがあってもいいかもしれませんね。

○事務局（神経営管理課長） 経営基盤の一番最後に条例などの法的整備とあって、今言われたようなことをちゃんとチェックするものを設けることは可能性としてはあるのかなと思います。

○佐藤委員 IR整備法をつくっている場合ではなく、その前に動物園法をつくるほうがいいですね。

○福井副委員長 国ではなかなか難しいでしょうね。今日、欠席されている小菅参与も頑張ってやっていますが、まだまだ先だと思います。でも、条例をつくるだけでも画期的だと思います。

○事務局（神経営管理課長） 金子先生、実施体制についてはどうですか。

○オブザーバー（金子） 結局、文言として美しいものを書いても、実行力が担保されないとなかなか難しいのです。多分、これから、園長を初め、庁内でやっていくときには大変ご苦労されるのかなと思います。

僕も道庁にしばらくいたので、お金を出すところや議会とかが嫌がるのは組織をつくり、人をふやします、条例をつくり出すという具体のことを書かれることで、ここは削れと言われるのかなという気がします。しかし、小菅参与も言っていたように、ここがこのビジョンの肝になるところかなという気がしています。ですから、法的整備を視野に入れた検討は何とか残すようにしていただく方向が重要かと思います。

あとは、このビジョンを実現する上では、組織と予算が絶対に必要だということです。行動指針でいろいろと出てくると思いますが、前もって、動物園側の考え方として、この文言というのは、後々、施設にしても組織にしてもこういうものをつくるのだということ、あるいは、予算がこれぐらいはかかりそうなど、何となくでもイメージを持っておいたほうがいいのかと思います。ですから、裏資料というか、この文字づらだけではなく、ここはこのぐらいは考えているぞというものがなくなかなか戦えないのかなという印象を持ちました。

今、福井副委員長が言われたように、海外の法律や条例、規則などは重要なのではないかという気がします。円山動物園が目指す法的整備というのはこういうものだというような、理想的なものはこれだというものを福井副委員長から出していただいて、手持ち資料

として持っておいたほうがいいのかという気がします。

○事務局（神経管理課長） それがないといけないと私も思います。なかなかイメージしていただけないので、条例とは何をやるのだというか、市民にとってよいものではないと、メリットがないとつくれないので、そこを整理しなければならないと考えております。

○オブザーバー（金子） 生々しい話ですが、市長選挙戦とかに上がってくればね。

○事務局（神経管理課長） そういったことも可能性としてはあるかもしれないですね。それでは、時間もありますので、実施体制についてはこれで説明していきたいと思えます。

○事務局（加藤円山動物園園長） ただ、冒頭に福井副委員長から話があった獣医の人材育成については考えたいと思えます。

○福井副委員長 日本野生動物医学会の（動物園動物医学）の認定専門医の認定制度を活用していただければと思えます。

○事務局（神経管理課長） 最後に、行動指針になります。

2ページにわたって長々と書いております。これは、飼育だけではなく、支える管理サイドもちゃんとやるということが含まれております。

水落委員はいろいろな企業の行動指針を見られているかと思えますので、お聞きしたいと思えます。企業であればもっとシンプルだと思えますが、今回は、具体的に、生物多様性や環境教育など、最後はコンプライアンスでまとめていますが、あえて細かく書いたものとなりますが、いかがでしょうか。

○水落委員 これはこれでいいのではないのでしょうか。

○事務局（神経管理課長） これまで、動物園では、職員がこういうことをやっていくのだとか、園として目指すものを外に出したものがなく、今回、基本方針をつくる中でぜひこういう行動指針を入れ込みたいと考え、つくりました。先ほどありました市民評価なり外部評価なり、ちゃんと職員はやっているのかという評価にもつながるのではないかと思っております。

○吉中委員長 この行動指針は、職員プロジェクトでも議論されていると思うのですが、それがうまく盛り込まれていると捉えてよろしいでしょうか。

○事務局（神経管理課長） 例えば、情報発信が足りないとか、そのようなことがありましたか。

○事務局（朝倉飼育展示課主査） 初期段階で出た内容も入っておりますし、行動指針に関しては、まとまった段階で全職員に伝え、フィードバックもあつてのまとめです。えっ、ここまでというような意見はありましたが、全員には伝えられております。

○事務局（神経管理課長） そして、職員だけではなく、上からの希望も入っていると思えます。

○事務局（加藤円山動物園園長） みんなが同じ方向を向いて、同じ気持ちでやるということが基本です。人も入れかわることがあるので、あえて書かざるを得ないものもありま

す。それを常に見返して、自分の中で整理するということになるのかなと思います。

○事務局（神経営管理課長） 行動指針については足りないものはあるのかもしれませんが、最大限盛り込んだものとしてこれを出したいと思います。

ここまでで全体を通して何かありましたらご意見をいただきたいと思います。

○福井副委員長 ビジョン2050には、おもてなしや開かれた動物園など書き込まれ、市民に寄り添った動物園をを目指す、あるいはもちろん教育と保全というエッセンスの入ったいいビジョンになったと思いますが、一方で、市民動物園会議から編集面でのという見せ方に課題があるということだったかと思います。porocoのような~~の~~編集があれば、もっと見やすく、すんと落ちる構成にできると思います。内容はすごくいいものができましたので、見せ方が失敗しますと効果が半減してしまいます。動物園の展示と同じで、見せる動物はすばらしいけれども、見せ方が下手だとつまらないものになっていますので、そこは課題であり、しっかりやった方ほうがいいと思います。

細かく見ていくと、数字が違ったり、フォントが違ったり、点や丸が冒頭に来ていたり、変になっているところがありますので、編集をしていただければと思います。

○事務局（神経営管理課長） また、福井副委員長からありましたなぜ象ゾウを飼うのか、なぜホッキョクグマを飼うのかです。

7ページの教育のところに入れていますが、ホッキョクグマよりアジアゾウが何でと市民の方にはひっかかるかもしれませんので、アジアゾウについて、教育なのか保全なのか、コラムのところをしっかり書き込みたいと思います。

○福井副委員長 4ページの森林伐採による影響のところ、ポテトチップスやチョコレートに使っているパーム油を生産するアブラヤシ農園のための熱帯雨林の開発という話が出ていますから、こういうことから何でオランウータンを推進種にしているのかにつなげておいほうがいいかもしれませんね。エッセンスが各所にちりばめられているのですが、つながりをもう少し意識した書き方がいいのかなと思います。

○事務局（神経営管理課長） そのほかにございませんか。

○吉中委員長 2点あります。

1点目は、はじめにところで、グローバルな目標として、SDGsと並べて生物多様性国家戦略とあるのですが、こうするのであれば、国家戦略ではなく、地球規模の戦略計画のものかなと思います。

そして、2ページの木の絵についてです。

私も記憶が定かではないのですが、市民動物園会議では、連携するカテゴリーというか、これをもうちょっと後ろの章を見つつ整理したほうがいいのではないかという具体的なコメントが出ていたように思います。

○事務局（神経営管理課長） それはこれからとなります。連携の位置はもうちょっと調整したほうがいいのではないかとか、言葉の修正について出ていましたが、それはこれから修正をかけます。

また、佐藤委員から言われていた「円山動物園」ですが、根っこにあったものを真ん中にしております。

そのほかにございませんか。

まだ生煮え状態というか、コレクションプラン以下をほとんど見せられないまま終わりました。約束違反だったかもしれませんが、今回、第6回目では何とか外に出せるような形にできたのかなと思っております。ご協力をありがとうございました。

○オブザーバー（金子） 市民動物園会議で話すと、いろいろなどやらなければという気がしました。

行動指針のところで生物多様性を保全するためという3行があるだけで、ほかのものは小括弧があるのに対し、内容として何もないような感じがして寂しく思います。

特に、先ほど福井副委員長から野生復帰の話が出ましたよね。お題目としては前のほうに書かれています、具体的に動物園としてどういうふうに取り組むのかというような行動指針的なものがどうなのかなと思いました。全部を読んでいないので、ここにということはあるのかもしれませんが。

コレクションプランは見せる前提ですよ。ですから、飼育はするけれども、見せない動物、例えば、絶滅危惧種なので、ふやすために10年間は見せませんなど、仏像の何十年に一度のご開帳のように、生物多様性を保全するためにこういう取り組みをしますという行動指針がここにあってもいいのかなという気がします。

○事務局（神経営管理課長） 最初の整理は、生物多様性を保全するためということで、職員はマイカーの利用を控えるなど、職員の行動を制約するものがたくさん入っていたのです。しかし、中で議論する中で、余り具体的に書かず、「環境首都・札幌」宣言の中にさっぽろエコ市民26の近いというものがある、そこに細かなことが書かれていますので、ここはこういうふうにして、(1)や(2)がないのはそういう事情です。

ただ、そのほかにもそういったものを別に書いたほうがいいのかということですか。

○オブザーバー（金子） 意識的な部分でも、最初は生物多様性の保全とあるのですが、どんどん読んでいくと、動物園として何をやるかが小さくなっていくような気がするのです。コレクションプランも、何となくですが、動物園の今までやってきたものにプラスアルファでとどまっているような気がして、大上段で構えているわけですから、もう少し書いてもいいのではないかなと思うのです。

○事務局（神経営管理課長） そこは考えて、できるだけ入れられるようにします。確かに、個々の職員としての行動や取り組みについては書かれていないです。

○オブザーバー（金子） これは、職員のという意味ですか。

○事務局（神経営管理課長） はい。

そんなところで、実施体制なのか行動指針なのかという位置づけが変わってくるかもしれませんね。

○事務局（加藤円山動物園園長） さっぽろエコ市民26の誓いをずらずらと書きますか。

○事務局（神経営管理課長） ただ、金子さんが言った野生復帰などはそこには入っていません。

○オブザーバー（金子） 動物園の役割としての野生復帰についてですが、今、せっかく施設があるけれども、余り有効に活用されている状況でもないのかなという気がします。そうではなく、もう少しプラス側でやっていく必要があると思っています。そうなったとき、今のビジョンでは読み取れないような気がするのです。

○事務局（加藤円山動物園園長） 実施体制の中で整備しないと、動物園としてのことにならないのです。

○オブザーバー（金子） 野生復帰施設という言葉を入れてしまうと、その辺は議論があるところかなという気がしますね。

○事務局（神経営管理課長） 組織体制とありますが、生物多様性の保全と環境教育を推進していくためにというところを書くことは可能ですね。今、金子先生がおっしゃったことは、行動指針ではなく、組織体制の最初の項目のところ整理できそうですね。組織としてそういうことに取り組むのだということかなと思います。

○オブザーバー（金子） もっと大きく、野生復帰を含めた研究組織を立ち上げますなど、そういうものがあるかもしれないですね。どこまで書けるのか、あるいは、やるかもありますが、そうすると、動物専門員という役割を超えて、研究員を入れる組織も必要だという話になってきますよね。

○事務局（神経営管理課長） 今の組織体制の生物多様性の丸ポツの二つ目の動物園とは別に例えば生物多様性保全センターの創設など、動物園を超えてしまう部分は関係部局と調整しながらつくりますということで、そんなニュアンスは入れているのです。

○オブザーバー（金子） でも、動物園とは別になのですね。

○事務局（加藤円山動物園園長） 動物園の範疇を超えるということですね。

○福井副委員長 センターラボはありますけれども、将来的に保全研究を充実させる研究施設や多摩みたいに生物多様性保全センターをつくる計画はないのですか。

○事務局（神経営管理課長） そういう動物園があるので、目指していくことになるのだろうとは思っております。

○事務局（加藤円山動物園園長） ズーラシアのようなものがあるといいなということですね。

○福井副委員長 予算次第でしょうけれども、必要性をアピールするところまでぐらいはビジョンに入れたいですね。研究こそが動物福祉や保全を支えていく、その先に伝えられるものとしての教育があるということですね。

○事務局（神経営管理課長） 2050年までの体制ということで、そういったことも可能性としてはあると思っていましたので、具体的にそれを入れ込めるかどうかは内部で検討します。

○吉中委員長 前段にはぼんやりと書いてあるので、それを実施体制としてどう担保する

のかをもう少し強目に書いてもらえるといいですね。調査・研究のところにもさらっとありますし、余り明確ではありませんが、4ページにもありますよね。

○事務局（加藤円山動物園園長） いずれにしても、特に後段についてはお金と人の攻防になりまして、変わっていく可能性もあります。

○吉中委員長 その意味では、最初から余り下から行かないで、本当に必要なものを最初から書き込めばいいと思うのです。

○事務局（加藤円山動物園園長） 余り書き込むと全部落とせと言われるので、せめぎ合いですね。

○事務局（神経営管理課長） 佐藤委員がここで退席いたします。

○佐藤委員 申しわけありませんが、よろしく願いいたします。

○事務局（神経営管理課長） そのほかにございませんか。

○吉中委員長 佐藤委員、これが最後の検討部会になるのです。

○佐藤委員 もう一回ぐらいあったほうがいいのではないですか。

これで失礼いたします。

ありがとうございました。

○事務局（神経営管理課長） 時間も過ぎてしまいました。

ほかになれば、吉中委員長にお返しいたします。

3. 閉 会

○吉中委員長 どうもありがとうございました。

昨年11月6日に第1回をやり、その後、寒い中をやってきて、最後は暑い中で終わりました。とりあえず、こういう場でビジョンについてざっくばらんに意見をすることはこれで終わりますので、園長からお願いいたします。

○事務局（加藤円山動物園園長） 非常に貴重なご意見をありがとうございました。

これで何とか内部で議論する形になりました。皆さんのご意見をどうやって反映していけるかはこれからの我々の努力ですが、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。でき上がって終わりではありません。どう実現するかというところで皆様のお力をおかりすることになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○吉中委員長 これから交渉があると思います。その際、お役に立つのであればですが、必要に応じて私の名前や検討部会でこんなに強く言われましたということを使っただけであればと思います。

拙い進行でしたが、私も大変勉強させていただきました。どうもありがとうございました。また、エンビジョンの長谷川さんにも大変助けていただきました。さらに、動物園の職員プロジェクトにも何回か出ささせていただき、とても勉強になりました。ああいうものがなければわけのわからない私なんか変なことを言っただけで終わったことになったかと思いますが、現実を踏まえて、さらに、職員の方々の将来への思いも伝わってきまして、

大変勉強になりましたし、よかったと思っております。

これで検討部会は終わりますけれども、お集まりいただいた皆さんには、これからも動物園に目を向けていただき、私もサポートしたいと思っておりますが、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

どうもありがとうございました。

以 上